



大杖 正彦 議員

観光業の具現化の主体は

町長

立案と責任は町が担う

【大杖】本町は、商工業の発展を目標に「恵みの里」構想の一つの柱として、観光事業を掲げた。

観光業の安定的な発展や新町長の公約でもある「町民と一体となった開山1300年祭の成功」の実現には、目標に向かって組織が戦略的に動くことが重要だが具現化の主体はどこか。

【町長】大山観光のビジョン立案と責任体制は町が担う。



大山観光の新しい窓口となる「こもれびと」

【大杖】大山観光局が100%出資の(株)さんどうの中・長期ビジョンを基に、明確な目標と費用対効果を検証する体制が必要と思うが。

【町長】観光の中・長期ビジョンが目標で(株)さんどうは観光局の動きの中にある。検証は事業実施主体から事業効果の報告をもらい、判断は町が行なう体制を考えている。

郷土を学ぶ授業とは

教育長

ふるさとを愛する心を育む

【大杖】「人づくりは町づくり」これからの素晴らしい大山町を築くのは、子どもたちにほかならない。どのような授業で地域の素晴らしいさを教えるか。

【教育長】学習指導要領に、地域の自然や歴史・文化を学び、郷土を愛する心を育むことが目標とある。

この考えのもと、地域の方をゲストティーチャーとして話を聞いたり、現地で直接聞きしたりする学習を取り入れ、積極的に地域の資源を教材として活用する。

【大杖】乳児の家庭内保育は将来健全な子どもに成長すると聞いて

いるが。

【教育長】乳幼児が親や家族と触れ合いながら、地域のなかで育っていくことがとても大切と考えている。

昨年度、家庭保育支援制度を創設、今年度から県も補助を開始、支給対象を1歳までから2歳までに拡大した。



大山の自然を楽しく学ぶ児童たち